

# やけどに注意

## やけど事故を防止するために

- ・加熱操作を伴う実験では、実験終了後、冷めるまで加熱した器具類に触らない。
- ・液体を加熱している試験管の口は、人のいないほうに向ける。
- ・試験管で液体を加熱するときは、突沸しないように沸とう石を入れ、試験管を小刻みに振る。
- ・必ず立って実験をさせる。

### 関連単元

- みんなて使う理科室
- 7.ものの温度と体積
- 8.もののあたたまり方
- 9.水のすがた
- 6.もののとけ方 (5年)
- 1.ものが燃えるとき (6年)
- 2.植物のつくりとはたらき (6年)
- 5.水よう液の性質 (6年)

4年

## やけど事故の原因を知ろう

- ・加熱中、加熱後の器具等に触れる…実験用ガスコンロ、ガスバーナー、ライター、アルコールランプ、マッチ等
- ・ショート回路に触れる。
- ・加熱された器具等に触れる…金属球、金属輪、金属棒、三脚、金網、鉄製スタンド、試験管、溶けた蝋等
- ・熱い湯がかかる…児童の注意が散漫になっているときに多い。

## 応急措置

重いやけどでなければ、徹底的に冷やすことが大切である。水道水や氷水で患部を十分に冷やす。冷やすことにより、患部の悪化を防ぎ、治りが早くなる。

患部が衣類におおわれているときは、やけどの程度により衣類を脱がすか、はさみで切り裂くかし、患部を清潔な布でおおうとよい。

〈やけどの程度と応急処置〉

- ・やけどの程度に応じて、応急処置をしたあと、すぐに医者の手当てを受ける。

- |  |   |
|--|---|
| 1度……皮膚が赤くなる。<br>ひりひり痛む。                    | ⇒ 冷水で10～20分冷やし続ける。(衣服の上から水をかけてもよい)  |
| 2度……水ぶくれ(水泡)ができる。<br>強い痛みと灼熱感がある。          | ⇒ 冷水で20～30分冷やし続ける(水道水で冷やすときは、水泡が破れないように、水流を直接患部にあてないようにする)。水泡を破らないようにアクリノール液を塗って、軽く包帯(清潔な布)をする。 |
| 3度……皮膚が黒く焼ける。<br>患部がしびれ、針を<br>さしても痛みを感じない。 | ⇒ 乾いたガーゼで包み、すぐに医者の手当てを受ける。これは重いやけどで、範囲が広いほど生命の危険があり、早急に救急連絡して病院へ運ぶ。                             |

※注意すること

- ・衣服などでこすって、傷口を広げないようにする。
- ・顔の目の近くの場合は、目をこすらず、目の上をぬれタオルで冷やし、医者に診せる。

◎やけど事故が起きたときの一般的処置

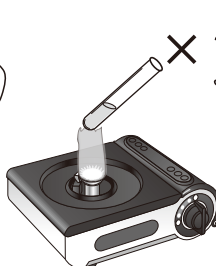
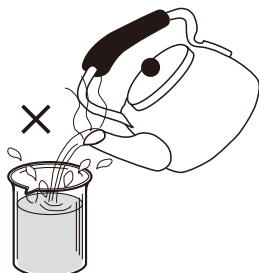
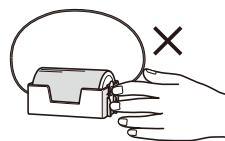
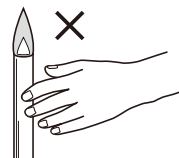
落ち着いて内容を正確に把握する⇒適切な応急処置をする⇒他の児童を落ち着かせる⇒養護教諭に連絡し、診てもらう⇒校長に連絡する⇒家庭に連絡する。

※各学校で安全管理マニュアルを作成しておく。

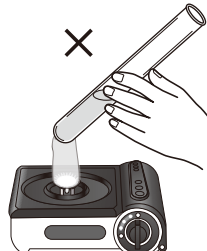
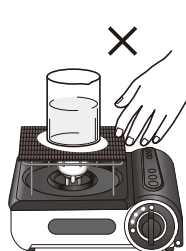
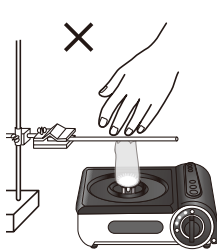
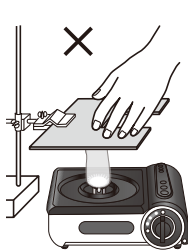
# やけどに注意

## ● やけどをしないために

- 使用中や使用直後のガスバーナーのつつの部分にはさわらない。
- 熱<sup>あつ</sup>くなったどう線にさわらない。
- ろうそくを使うときは、とけたろうが手にあたらないように気をつける。
- 熱い湯を使うときは、湯がとびちらないように気をつける。
- 試験管の口を人のほうへ向けない。
- 試験管で水などを加熱<sup>かねつ</sup>するときは、ふっとう石を入れる。



- 加熱<sup>き</sup>した器具類<sup>るい</sup>には、実験中にもとより実験が終わっても冷めるまではふれない。



## ● やけどをしたときは

- 本人、または近くの人が、すぐ先生に知らせる。
  - すぐにやけどをしたところを水道水（冷水）で10分以上冷やす。  
強い水流をあてるとよくないのでかげんする。
- ⇒ 水ぶくれができているときは、水ぶくれがやぶれないようにするために、水流をじかにやけどをしたところにあてない。



水のいきおいをかげんする。